

起き上がり

起き上がり人形で遊ばれた経験は誰にでもあると思います。いくら倒しても必ず起き上がってくる様は見ていると楽しいですね。ではその起き上がり人形は一体何時頃、何処で、どのようにして始まったのでしょうか。今回は起き上がり人形について考察してみることにしましょう。

起き上がり人形の始まりとされるのは、蒲生氏郷(1556～1595)が会津藩主であった時に市で売るようにしたのが最初だといわれています。氏郷は織田信長の下に人質として預けられていたのですが、信長に気に入られて次女の婿となっています。本能寺の変後に仕えた秀吉にも信頼されて、伊達政宗を牽制する意味で会津藩主となりました。

会津に来てからは葛西氏・大崎氏の旧臣が起こした一揆や九戸政実の乱を平定する一方で、民政に力を注ぎ信長に習って市を起こしました。その市で売られたのが起き上がり小法師が始まりで、会津では今でも一月十日の初市で家族の人数分プラス一個の起き上がりを買う風習があります。あの形は達磨を信仰していた義父信長に習ったものとも言われています。幾ら倒されても必ず起き上がる七転び八起きの姿が、粘り強い会津気質に合っていたので四百年以上も続いたのでしょう。

今でも作っている山田民芸工房の住所等は下記の通りです。

福島県会津若松市七日市町 12-35

TEL:0242-23-1465



起き上がり      ポロンちゃん

七福神

この起き上がりは日本人の好むものとなりました。セルロイド人形の世界でも明治の末には早くも七福神の起き上がりが作られています。また今では ABS となりましたが、ポロンちゃんは誰もが一度はご覧になったことがあると思います。動かすとポロン、ポロンという音がしますが、あれは中に分銅をぶら下げて周りに金属棒をぶら下げているのです。動かすと分銅が金属棒にあたってポロン、ポロンという音がするのです。原理的には風鈴や明珍火

箸と同じです。

起き上がりは日本だけでなくアメリカでも作られました。起き上がりのことを英語で Roly Poly と言いますが、これは「ずんぐりとした人」という意味です。確かにずんぐりとした姿かたちをしていますね。この起き上がりにも時世、お国柄が現れましてアメリカでは第一次大戦当時の兵隊、クリスマスのサンタクロースなどを作っています。



起き上がりを作るときには、底を丸くすること、底に錘を入れることを守っていただければ簡単に作れますので、一度ご自分のオリジナルを作られてはどうでしょうか。

ここに掲載したものの他にも色々な起き上がりを展示していますので、興味を持たれました方は一度セルロイドハウス横浜館にお越しいただきたいと思います。